

日本の音楽と舞を後世に伝えよう

2010 11/27(土)-28(日)

桑名六華苑 秋の舞楽会

春秋恒例の舞楽会が、本年も六華苑で開催されます。
舞楽会は、雅楽の舞を古式で上演する舞台芸術です。
音楽と装束の舞を庭園の美とともにお楽しみ下さい。



主催：多度雅楽会 (<http://www.tadogagaku.com/>)

三重県、(財)三重県文化振興事業団、県民文化祭運営委員会 (県民文化祭指定)

共催：桑名市文化・スポーツ振興公社

助成：芸術文化振興基金、三重県文化振興基金、岡田文化財団、朝日新聞文化財団

【歴史ある桑名の雅楽】

桑名の雅楽は、歴史も古く、天平時代の多度神宮寺に「楽具」の記録があります。
江戸幕府の老中「松平定信」から桑名藩が受け継いだ雅楽が三重に生きています。

雅楽は、古代の日本音楽と外来音楽が融合した日本の伝統オーケストラです。
宮中に伝わる雅楽 (国指定無形重要文化財) は、世界遺産に登録されました。
写真のとおり、3つの管楽器、3つの打楽器、2つの絃楽器で構成されます。



写真の順に	管楽器	…	龍笛 (りゅうてき)、篳篥 (ひちりき)、笙 (しょう)
	絃楽器	…	楽箏 (がくそう)、琵琶 (びわ)
	打楽器	…	鉦鼓 (しょうこ)、太鼓 (たいこ)、鞆鼓 (かっこ)

舞楽は、楽器の合奏に合わせて豪華絢爛な装束の舞人が舞台上で舞う芸能です。

【見どころ】

2日間にわたり、古代絵巻を物語る華麗な舞が、全国最大規模で10曲上演されます。

舞は、左方（南方伝来の音楽と赤装束）と右方（北方伝来の音楽と緑系装束）の2つに分類され、左右交互に上演されます。本年秋の舞楽会の日程は、以下の予定です。

<午前部>			<午後部>		
式舞	振鉦三節	(えんぶさんせつ)	左方	青海波一具	(せいがいはいちぐ)
左方	迦陵頻	(かりょうびん)	右方	白 浜	(ほうひん)
右方	還城楽	(げんじょうらく)	左方	安摩・二の舞	(あま・にのまい)
左方	胡飲酒	(こんじゅ)	右方	抜 頭	(ぼとう)
右方	陪 臚	(ばいろ)	左方	蘇 莫 者	(そまくしゃ)

○ 大太鼓（だだいこ）と大鉦鼓（おおしょうこ）

桑名といえば、石取祭の太鼓と鉦。その源流は、雅楽の打楽器です。火焰（かえん）を現す祭車は、舞楽の大太鼓の影響を受けています。全長7メートルと巨大な太鼓と鉦鼓は、舞台の左右に配置されます。

（ただし、芸術文化振興基金の助成がある場合に限りです。）

太鼓と鉦鼓の装飾は、左が日輪の金に昇竜、右が月輪の銀に鳳凰。秋は、国名勝庭園の紅葉と白亜の近代洋館を背景にした舞台です。



振鉦三節（えんぶさんせつ）

「舞楽会」で舞台を清める舞

笛の乱声（らんじょう／複数の奏者による曲の乱れ吹き）に太鼓と鉦の拍節を伴奏にして、まず、金色の鉦を持った赤装束の左方舞人（さほうのまいびと）が天を清めます（一節）。次に、銀色の鉦を持った緑装束の右方舞人（うほうのまいびと）が地を清めます（二節）。最後に、左方と右方の2人の舞人が同時に鉦を合わせて左右に振って祖先を敬うという（三節）舞楽開始の舞台儀式です。

迦陵頻 (かりょうびん)

天竺の祇園寺の供養日に、極楽に住む 迦陵頻伽という霊鳥が飛来し、妙音天が奏し阿難が広めたといひます。舞人が打ち鳴らす銅拍子の音は、この鳥の鳴き声を模したものといひます。

○ 童舞 (わらべまい)

市内公募により選ばれた子供たちの舞です。

春の蝶に秋の鳥

秋の「迦陵頻」(かりょうびん)は、鳥の舞。古代シルクロード由来の生きた文化遺産です。本年は、多度中小学校の児童4人が舞います。御台所祭などで地域振興にも活躍しています。



○ 走舞 (はしりまい)

遊牧民族の名残ある毛皮に動物等を意匠した華麗な「柄襦」(りょうとう)装束の舞人がいかめしい舞楽面を付けて桴(ばち)を持って舞います。太鼓を連打する夜多羅(やたら)拍子に代表され、舞人が舞台全体を動き回り、時折走るなど、力強く躍動的な舞振りです。

今回は、冒頭掲載写真の異国人が蛇を見つけ捕り喜ぶ「還城楽」のほか、胡(西域)の人が酒を飲んで舞う「胡飲酒」、聖徳太子が笛を吹くと猿の神が舞う「蘇莫者」、親の敵を追い求める「抜頭」を上演します。陰陽師で有名な「安摩・二の舞」もお楽しみください。



安摩 (あま)・二の舞

「二の舞を踏む」語源の舞

「安摩」と「二の舞」で構成され、紙に幾何学で人面を意匠した雑面(ぞうめん)を着けた2人の舞人が、笏(しゃく)を振る舞手(まい)で、左右対称に縦斜に走る「安摩」の後、「二の舞」の咲面(えみめん)と腫面(はれめん)の爺と婆が、「安摩」を真似ようとしますが、うまく舞えません。二の舞では笏を振る替わりに「踏む」舞手となってしまいます。

○ 平舞（ひらまい）

平安貴族の栄華を物語る優雅な舞です。四季に恵まれた我が国ならではの自然の色彩と感性で、花や動物などを刺繍で意匠した唐装束や王朝装束は豪華絢爛です。壮大な宇宙やもののあわれを現した音楽に合わせて、複数の舞人が袖を振りながらゆったりと舞います。

今回は、琵琶や箏を加えた華やかな音楽の中で、まず、舞人10名が舞台を大輪で周り、序曲4人舞「輪台」に続き、本曲2人舞「青海波」を、和歌「伊勢海（いせのうみ）」の歌を交えながら唐装束で舞います。「白浜」は箏と笛のソロの序吹きで始まり、本曲では、4人の舞人が冠に季節の花を挿して人の輪で花の形を造り巡る王朝装束の舞です。



青海波

「源氏物語」光源氏の舞

箏（ひちりき）の哀愁漂う美しい旋律に、男波、女波、千鳥懸（ちどりがけ）と打楽器のリズムに合わせて、2人の舞人がゆったりと袖を振って舞います。

青海波の装束は、青海波紋と霞の下襲（したがさね）に、牡丹文様の半臂（はんび）、濱千鳥の袍（ほう）と豪華絢爛で、太刀（たち）を佩（は）き、鳥甲（とりかぶと）を被ります。

【寄付の御願い】

国民の芸術に対する寄付を文化庁は推進しており、この舞楽会は、企業メセナ協議会の助成認定事業です。企業5万円以上、個人1万円以上を寄付する場合、税制上優遇される特典があります。寄付をいただける方は、御案内しますので、御連絡ください。

<連絡先> 電話0594-48-3484 多度雅楽会

そのほか、寄付の直接振込先（千円以上）は、以下のとおりです。

<振込先> 桑名信用金庫 多度支店 普通口座 0036635 多度雅楽会

又は ゆうちょ銀行 総合口座 10170-4758301 タドガクカイ

【会員募集】

日本の心を音楽や舞で伝える「雅楽」とともに人生を楽しみましょう。
多度大社前の稽古場所やマイカル桑名などで、週末に活動しています。
桑名市文化協会会員の市民活動です。由来ある東京で定演もあります。
○会費：4,200円/月 …楽器や演奏会の参加費用は別途必要です。



【写真コンテスト】

雅楽を一般の方も広く親んでもらえるよう、華麗な舞台と装束に舞手（まいのて）の写真コンテストを実施します。「桑名 六華苑 舞楽会」で撮影した秀作をA2版以上に拡大したものをデータとともに御送付ください。応募作品による写真展を開催いたします。

<送付先> 〒511-0101 三重県桑名市多度町柚井1842 多度雅楽会

【多度山の景観を守る活動】

多度の山里は猿害で耕作放棄地が多くなり荒廃しています。多度を愛する人なら誰でも参加できる地域再生プロジェクトです。柚梅は、猿害に強く、多度の土地に適しています。多度の柚梅は、古来、地域産品や健康食品として親しまれてきました。

10年かけて人々と交流しながら樹木を育てて、多度の自然を舞台にした芸術美を追求できる地域景観を守りましょう。

○入会条件

- 入会金：4,000円（苗、整地及び植樹の費用）
- 年会費：3,000円（維持運営費用、2年一括）
- 2年更新、入会時に1万円の入金が必要です。
- 果実は、指定期日前の自己収穫で50%です。
- 退会時の樹木所有権は、運営者に帰属します。
- 無過失の枯朽、果実盗難の責任は負いません。
- 損害について、入会金の金額を限度とします。



○会員特典

運営者と担当ボランティアからの感謝の気持ちです。

- 収穫した柚や梅などをプレゼント
- 命名&メッセージ・プレート設置可
- 交流ツアー（雅楽生演奏付き）



○樹木育成ボランティア募集

- 多度の山里の景観を整備して後世に伝える使命をもって働いていただける方
- 原則無償ですが、樹木生育による収益の一部を作業負担に応じて提供します。
- ボランティアにより発生した損害について、多度雅楽会は責任を負いません。